

農大と 図書館・博物館・動植物園を結ぶネットワーク

## 学術情報課程通信



## 農大

## 大学博物館としての役割

「食と農」の博物館館長 上岡美保

生の意志を継いだ博物館となつて  
ると自負している。

その後、2021年の後半からは、  
本学創立130周年記念展示「学祖群  
像―豊かさをつなぐ」を開催し、本学  
の生みの親である榎本武揚先生、育て  
の親である横井時敬先生、そして田中  
芳男先生といった学祖に焦点を当て、  
改めて本学創設の歴史をたどった。  
その詳細は割愛するが、わが国の発展  
を農業振興にみた近大農学発展の立  
役者達の思いを共有するとともに、本  
展示によって改めて農学の果たす役  
割の重要性を再認識できたように思  
う。

これまでの様々な展示を通して、大  
学博物館の存在意義は、当該大学とし  
てのアイデンティティを保ちつつ、当  
該分野の情報をわかりやすくかつ親  
しみやすい形で発信し、広く一般の  
方々への理解を促すことのように感  
じている。大変光栄なことに、今年6  
月、日本経済新聞「Nikkeiブラ  
ス」にて、当館は大学博物館自然科  
学系でランキング第1位の称号をい  
ただいた。この栄誉に恥じぬようこ  
れからも皆様に「食と農」の大切さを  
感じ、楽しんでいただける博物館とし  
て鋭意努力していきたい。

令和3年度  
資格取得  
状況

東京農業大学

資格取得者数

| 学 部 | 農学部 | 応用生物<br>科学部 | 生命科学部 | 地域環境<br>科学部 | 国際食料<br>情報学部 | 生物産業<br>学部 | 科目等<br>履修生 | 合計  |
|-----|-----|-------------|-------|-------------|--------------|------------|------------|-----|
| 学芸員 | 108 | 16          | 18    | 33          | 11           | 28         | 3          | 217 |
| 司 書 | 28  | 10          | 8     | 19          | 10           | 0          | 0          | 75  |

## 令和4年度 学芸員・司書関連新規就職先一覧

令和5年2月現在

| 学 科                          | 就職先                           |
|------------------------------|-------------------------------|
| 大学院農学研究科畜産学専攻(後期)            | 東京動物園協会                       |
| 大学院地域環境科学研究科<br>地域創成科学専攻(前期) | 株式会社ブレック研究所                   |
| 大学院生物産業学研究科<br>生物生産学専攻(前期)   | 霧多布湿原センター<br>(霧多布湿原ナショナルトラスト) |
| 動物科学科                        | 宮崎市フェニックス自然動物園                |
| 生物資源開発学科                     | 月夜野さご園                        |
| 造園科学科                        | 愛植物設計事務所                      |
| 造園科学科                        | グリーン産業株式会社                    |
| 海洋水産学科                       | 京都水族館                         |
| 海洋水産学科                       | レゴランド・ジャパン                    |
| 海洋水産学科                       | 南知多ビーチランド(臨時)                 |

| 学 科                                 | 就職先                                         |
|-------------------------------------|---------------------------------------------|
| 大学院地域環境科学研究科<br>森林総合科学専攻(前期)令和3年度修了 | 株式会社自然教育研究センター(契約社員)<br>(中里郷土の森緑地、三番瀬環境観察館) |
| 農学科令和元年度卒                           | 東京都公園協会 神代植物公園                              |
| 畜産学科平成30年度卒                         | 国立科学博物館(臨時)                                 |
| 国際農業開発学科令和元年度卒                      | 公益財団法人 清春白樺美術館財団・清春芸術村                      |
| 国際農業開発学科令和元年度卒                      | 彫刻家マネージャー                                   |
| バイオサイエンス学科平成29年度卒                   | 世田谷区立中央図書館                                  |

IT企業については現在調査中

検索技術者検定3級合格者 4名(農学科1名、生物資源開発学科1名、醸造科学科2名)

関連組織に新しく就職された方は、是非、下記までご一報ください。

## 農事遺産 ⑪

## ―農大古農具コレクション―

この写真が樹木の枝の一部であることは、誰でも分かる。だが現代の若い方々にとって、何に使用するかを知る人は少ないだろう。樹木の中央が長方形に削られてる形から、御年輩の方であれば砥石台だと分かるだろう。

筆者も子供の頃、写真の様な砥石台で草刈り鎌や包丁を研ぐ両親の記憶がある。両親の目を盗み包丁を研いでいたら、母に叱られたこともあった。左右下方

に伸びた2本の枝の形が、不思議と生き物の様にも思えたことが子供心にある。樹木はマツ科二葉松類のもので、その枝振りの自然な形を利用しており、美しさを感じる農具だ。これは高知県で使用されたものだが、筆者の郷里、岩手県奥州市のそれと同じ形をしており興味深い。

地域が違っても、人間のモノを扱う発想が大きく変わることはないだろう。(Y)



資料名：砥石台  
寄贈者：野坂佳水氏 高知県佐賀町  
収集：1982年1月30日  
サイズ：最大長45.0cm、最大高11.2cm、最大巾7.3cm  
(写真 T)

表紙：「ユキウサギ(夏毛)」ウィリアム・リザース画(スチール版画手彩色)『ナチュラリスツ・ライブラリー』ウィリアム・ジャーディン著 1833年ロンドン 学術情報課程蔵

## 学術情報課程通信 第11号

GAKUJUTSU JOHOKATEI TSUSHIN

東京農業大学  
学術情報課程 発行〒156-8502  
東京都世田谷区桜丘1-1-1  
電話 03-5477-2533レイアウト・印刷／共立印刷株式会社  
令和5年(2023)年2月28日 発行<https://www.nodai.ac.jp/academics/info/>

## 編集後記

国際センターが3月に竣工する。1階には榎本武揚ギャラリーを始めとする展示や国際交流プラザ、世界の地理区分に沿った書架コーナーやカフェがオープンする。留学生や海外研究者との国際交流や憩いの場となり、世界に向けた研究発信を後押しするだろう。そこではギャラリーの展示品や書籍が、それぞれの自国の文化や科学の夢を語り合う幸福なツールとして置かれる。学術情報課程はここで、世界と研究者を繋げる役割を果たしていければと思う。(R)

## 38年間を振り返って

学術情報課程准教授

惟村直公

1985年に学術情報課程に入職してから、38年間という歳月が経ちました。折しも、学術情報課程が設立されてから40周年を迎え、学術情報課程創設されて間もない時期から、課程とともに歩んでこられたことに感謝の気持ちしかありません。学術情報課程設立当時は、情報化社会への移行期であり、コンピュータの普及に始まり、電話回線を利用した外部コンピュータとの相互接続、さらにインターネットの発展と目まぐるしく社会が変化していきました。この時代に学術情報課程が誕生したことは意義のあることだと思います。

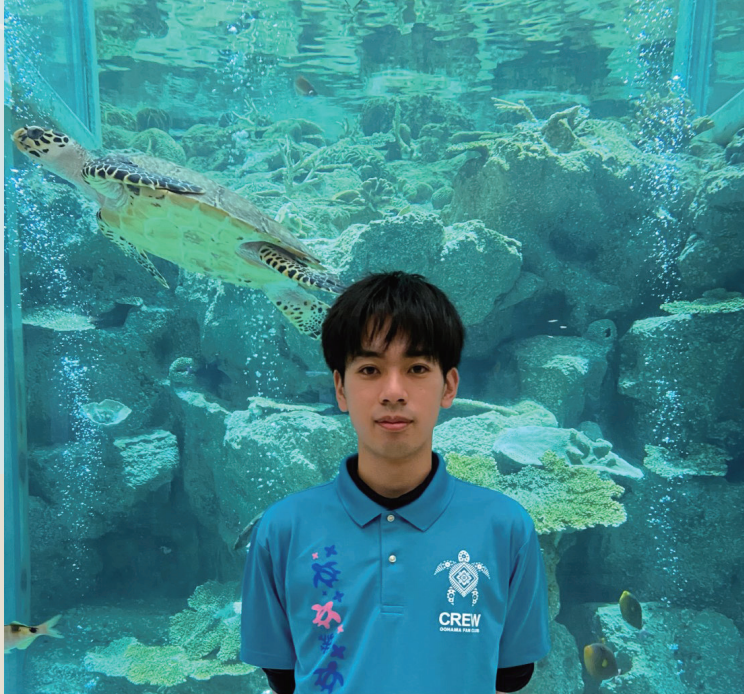
38年間を思い返すと、最初は十数名の履修者から始まり、今では700名近い学生が履修するまでに発展してきました。また、学芸員資格取得者総数は5,906名以上、司書資格取得者総数は2,489名以上までになり、卒業後に博物館や図書館、更にこれらの関連産業に就職する学生も増加していきました。当初は、実習挨拶に博物館や図書館に伺っても「農大で学芸員や司書資格が取れるんですか?」と言う質問が必ずと言って良いほどありました。質問されるたびに課程の設立の趣旨を説明させて頂いたのを覚えています。しかし、卒業生の活躍によって今ではそのような質問をされることが無くなり、逆に何処の図書館に卒業生が活躍していることを教えて頂くなど、こち

らで把握していない情報を教えて頂くことが多くなっています。

私自身も学術情報課程で学んだことで、恩恵を受けた一人でもありました。大学院の博士課程在学中に学術情報課程を履修し、縁あって1985年から学術情報課程に副手として採用されました。一見、順風満帆のようですが、かなり苦しい時期でもありました。それと云うのも、1984年11月に研究室火災が発生して、大半の実験データを焼失してしまっただからです。そのため、昼間は学術情報課程の勤務をし、夜はデータを取り戻すために実験を明け方まで行うなど、肉体的にはかなりきついものがあり、失われたデータを取り戻すまでの2年間がとて大変でした。しかし、一方で、学位論文をまとめ上げることができた確信のようなものがありました。学術情報課程で学んだ情報の知識が大きく役立っていたからです。この情報の知識のおかげで、全く異なる分野から有益な情報を入手することができましたし、ある物質の分析ができる国内唯一の研究所を探し出し、分析の協力を依頼できたのもこの課程で学んだ知識のおかげです。加えて、当時の学術情報課程の教授陣に農学や医学分野を専攻したのちに図書館情報学の分野で活躍されていた先生方の存在も大きいものでした。このような先生方から、様々なアドバイスをいただいたことも2年間という短期間でまとめあげられた大きな要因となりました。

私が学生であったとき、ある先生から「君たちは大変な時代に研究者としてのスタートをするのだね」と言う言葉をかけられました。その先生の時代は、図書館に行って新刊雑誌を7〜8冊程度を見れば、ほぼ全ての最新情報を手に入れることが出来たと言います。しかし、研究が進み、学問形態がより細分化して新しい学術雑誌が幾つも創刊されていくことで、情報量が増加して最新情報入手するのが困難になることを説明され、情報との向き合い方を改めて考えさせられました。現在では、インターネットの普及に伴い、従来の紙媒体を利用した雑誌以外にも電子書籍・電子ジャーナル等が増加して、情報収集の方法も変化してきています。学術情報の世界でも、オープンアクセス、オープン査読など流通が多様化する傾向にあります。文献入手が便利になったように見えても、多様化する学術情報の流通を見極めなければ適切な情報を入手することが困難になって行くでしょう。近年では、情報リテラシー教育やデータサイエンス等の情報教育に力を入れる大学が多くなってきています。その中で、学科の専門教育に加えて情報リテラシーを学ばせる学術情報課程の役割はますます重要なものになると思います。情報がこれからの様に変化するのか、まだまだ流れを見続けたいという思いがあるのですが、定年という節目を迎え課程を支えて下さった教職員の皆様や活躍されている卒業生の皆様に感謝しつつ、学術情報課程を「卒業」させて頂きます。

## 離島の水族館飼育員



打和 宏介 Kosuke UCHIWA

1998年 福岡県生まれ  
2021年 バイオセラピー学科卒業  
2022年 大浜海浜公園 奄美海洋展示館 飼育員

でもしものせき水族館「海響館」様にお世話になったとき、従業員の方々の熱意に惹かれ、水族館飼育員を目指すことを決意しました。卒業後は琉球大学研究生として1年間、研究や勉学に励みながら就職活動を行なっていました。沖縄生活の中で、慶良間諸島に住む方と知り合い、身近に海、山、川が揃う離島の生活にも憧れました。その後、奄美海洋展示館の募集を見つけ、自分にとって最高の場所に就職することができました。

私は主に河川の生き物からマングローブ・汽水域に生息する生き物たちの展示を担当しています。奄美大島に住まれる方々は、山や海について詳しい方が多いですが、川の生き物はあまり知らない印象です。知らない人が、深く関心を持てるよう、レイアウト作成する時は、自然の状態に近づけることを意識しています。

今後は水族館飼育員として研究調査を積極的にに行いたいと考えています。奄美大島では近年地球温暖化の影響により、生き物の生息状況の変化や、生き物たちの北限記録が更新されるなど、生物に関する研究テーマが大量にあると考えます。また、新種発見も続いており、そのうちの「タビオカウツボ」は、本館の学芸員の一人が釣り上げ、記録されました。このように、生物多様性が豊かな奄美大島で、生き物の大切さ・面白さを今後も発信していきたいと思っています。

## 図書館の魅力を伝える仕事

私は栃木県の足利市立図書館に司書として勤務しています。以前は博物館や環境学習のための施設で働いていました。

私は子どもの頃から本が好きで、中学生の職場体験は地元の公共図書館に行きました。また、同じくらい動植物も好きで、自然や生き物の魅力を伝える仕事に関心があったため、大学に入学した当初から学芸員と司書の資格を取ろうと決めていました。これまで博物館等で働いてきましたが、学術情報課程で学び経験したことは、今の私の仕事の基盤になっていると思います。

現在図書館業務では、団体向けの図書館見学や職場体験等を担当しています。図書館がどんな場所か学習に来る小学生を案内したり、インターンシップや職場体験に来た中学生や高校生に、カウンター業務や絵本の読み聞かせなど、司書の仕事を体験してもらったため、体験する業務を担当する職員と打ち合わせをしたり、必要な道具を準備したりしています。手順説明のための小道具の用意や、作業をサポートする職員との連携など、苦労することもあります。どれも達成感がある仕事です。また、後日参加者から届くお礼の手紙を読むと、たくさん準備してよかったな、やりがいのある仕事だなと感じます。

小林 あゆみ Ayumi KOBAYASHI

1989年 埼玉県生まれ  
2012年 森林総合科学学科卒業  
2019年 足利市立図書館(会計年度任用職員)司書

自分が知っていること、おもしろいと思っていることを紹介したり、誰かに体験してもらったりすることは、とても楽しくやりがいがあります。今後は、自分の得意分野である自然科学の知識を活かしながら、司書として来館者の様々なニーズに応えられるよう、技術を高めたいです。

